

★ このコーナーでは、大崎で活躍する人・団体、話題のもの、おいしいもの、伝統の技、物産、美しい場所など、誰かにすすめたい大崎の情報を紹介していきます



◀ 川渡マルシェでハンドメイド雑貨を販売する「わくわく」サークルの皆さん。7月7日にはファッションショーを開催するそうです。

▶ 鳴子の米プロジェクト「ゆきむすび」を使ったおむすびを販売する「むすびや」さん。



開催日
10時～13時

6月2日(日)、7月7日(日)、8月4日(日)、
9月8日(日)、10月6日(日)、11月17日(日)



▲ 川渡マルシェ実行委員長 遊佐さん(写真左から2人目)と川渡地区公民館長の濱田さん(写真右から2人目)、公民館職員の大山さん(写真左)、鎌水さん(写真右)

「買い物に不便を感じている人の手助けはもちろん、それ以上の楽しみが、マルシェにはあります。」そう話すのは、川渡マルシェ実行委員長の遊佐洋子さんと運営を支援

している川渡地区公民館の濱田澄子さん。商品は売り買いが目的ではなくても、交流の場、仲間との親睦の場、チャレンジの場、発表の場、この場の楽しみ方は人それぞれ。無理なく、集った人が有意義な時間を過ごせて、その形がいいなと感じています。」と、5年継続して見えてきた手応えを、笑顔で話してくれました。これらの川渡地区、マルシェからわく、ささやかで、ゆるやかな

活気が期待されます。これからの暖かい季節、川渡地区で、ゆったりお買い物を楽しむ時間はいかがですか。

川渡マルシェ

平成26年、川渡温泉駅開業100周年記念イベントとして開催した「川渡マーケット」が好評を呼び、現在の「川渡マルシェ」がスタート。4月～11月の日曜日(月1回)10時～13時まで川渡地区公民館で開催されている。入場は無料。出店は年会費1,500円で何回でも参加可。詳細は川渡マルシェ実行委員会(川渡地区公民館内) ☎84-6814

優しい気持ちがお客さんに伝わるのです。相手を思いやって作った商品には、売り手の人柄が見え隠れして、それもファンを引き付けるのかもしれない。評判は、世代・地域を問わず、口コミでどんどん広がりました。また、出店者も地元にとどまらず、中には県外から来る人もいます。マルシェをきっかけに、実際に店舗を持ってカフェや商売を始めた人もいます。

「マルシェ」とは、フランス語で「市場」という意味。「買い物弱者が増加している川渡地区で、気軽に買い物をして、人との交流を楽しみに来てほしい」という願いを込めて、川渡マルシェは5年前に始まりました。「マルシェ」というと、なんだかおしゃれな雰囲気がありますね。川渡マルシェには、地元のとれたて野菜、パン、おむすびにハンドメイドのアクセサリ、木工おもちゃ、出張療術、相性占い、ステージでは絵本の読み聞かせ、ミニコンサート…と、実にバラエティに富んだ出店が並びます。多いときで、40店ほどの出店が集まるそうです。ご飯のおかずを買う地元のお母さんたちや、お小遣いで雑貨を買う子どもたち、温



誰かにすすめたい、わがまち自慢をお届け

SAKIGAKE

VOL.1
川渡マルシェ

柔らかい雰囲気が心地いい
月1回 日曜日の楽しみ方



4月から11月のとある日曜日。国道47号から川渡温泉へ続く川渡大橋に掲げられた「川渡マルシェ」の旗を、見たことはありますか。

旗に誘われてたどり着くのは川渡地区公民館。月1回の日曜日、10時から13時まで「川渡マルシェ」が開催され、川渡温泉ににぎわいます。

「マルシェ」とは、フランス語で「市場」という意味。「買い物弱者が増加している川渡地区で、気軽に買い物をして、人との交流を楽しみに来てほしい」という願いを込めて、川渡マルシェは5年前に始まりました。「マルシェ」というと、なんだかおしゃれな雰囲気がありますね。

泉帰りに立ち寄る観光客と、ひっきりなしにマルシェのファンが訪れます。

マルシェの醍醐味は、なんといっても買い手と売り手のやりとり。川渡マルシェの魅力の一つは、「雰囲気の柔らかさ」にあります。

「お目当ての商品を競うように買い求める。1円でも安く!」そんなマルシェも時に楽しさがあります。川渡では「ゆったりと、自分のペースで」歩き進めるお客さんが多いようです。時間がゆるゆるのやりとりで、丁寧に、思いを込めて作ったハンドメイド作品や、こだわりの素材を使った総菜など、売り手の